

令和4年度 教職実践研究交流会 2022年7月30日

今年度は、現院生と修了生、教育学部教員、元教職大学院担当教員を対象とし、対面とオンラインを併用して開催いたしました。分科会では現院生が研究についての中間発表を行い、参加者から多くの質問やアドバイスをいただきました。その後の全体会では、元教職大学院担当教員の七條正典先生、大熊裕樹先生、教育学部教員による語り合いや、修了生からの近況報告があり、温かな雰囲気の中、交流を深めることができました。



学校力開発コース 新しい探究実習がスタートしました

学校力開発コースは、現職派遣に特化したコースです。これまでは、置籍校での実習とともに、附属学校での「探究実習」を行ってきました。今年度はその内容を見直し、新たな探究実習をスタートしています。

これまで行ってきた附属学校園での参観に加え、研究授業・討議会への参加を通して、附属学校園の学校園経営及び研究実践を学んでいます。さらに、県及び市町教育委員会等への訪問を通して、教育指導行政等の運営について学ぶ機会としています。探究実習に参加した院生の声を紹介します。

▷高橋 由佳

教育行政機関の実習では、学校現場とどのようにつながっているのかということがよく分かりました。全ての機関に共通していたのが、「子どもや教職員、学校のために」という気持ちを強くもっていたことです。これまで少し遠くに感じていた行政機関が、近くに感じ、学校の大きな支えだと強く感じました。附属学校の実習では、各学校が学校教育目標を実現させようと、特色ある取り組みをしていて、それが学校の強みとなっていると思いました。学校の強みをどう作るかというヒントを得ることができました。

▷中田 善司

教育行政機関では、香川の子どもたちのことをつねに考えて、教員の配置や資質・能力の向上のための研修等の業務に熱意をもって取り組んでいました。置籍校のある教育委員会では、子どもたちの最適な学習環境づくりのために学校の統合を行った経緯について説明を受け、自分の課題研究に役立てることができました。附属学校では、令和の日本型学校教育の構築を目指した研究が行われており、個別最適な学びと協働学習、ICTの活用等の先進的な実践について学ぶよい機会となりました。

▷松田 周子

各附属学校園や教育委員会等を訪問させていただき、異校種や教育委員会とのつながり、連携の大切さを学ぶことができました。特に附属幼稚園では、「遊びを通して学びの芽を育む」という幼稚園の教育理念が、全ての教育に通じていると感じました。子どもたち一人ひとりの興味・関心や思いを大切にし、失敗しても自ら考えたり働きかけたりしたことを価値づけること、子どもたちが興味・関心を持ち、学んでほしいと思う環境を意図的に作っていることなど、小学校でも引き継いでいきたいと思いました。

▷安田 有希

現場ではあまり感じるできなかった教育委員会などの行政と学校とのつながりを知ることができたり、附属学校園それぞれの特色を知り、自分たちの学校にも取り入れられることはないか、考える機会をもったりすることができ、収穫がたくさんあった実習でした。特に今の学校現場は特色ある学校づくりや働き方改革などが課題となっていますが、行政と学校両方からアイデアをもらうことができたことは、このコースならではの経験だと思います。実習での学びを現場の子どもたちに還元できるようにしたいです。

令和元（2019）年度に示された、児童生徒の一人一台端末化や、校内の高速大容量通信ネットワークの整備による、「個別最適化された学びの実現」に向けたGIGAスクール構想が、令和3（2021）年度に全国の義務教育段階の学校において本格的にスタートしたところであるが、未だその活用方法や端末の管理等については多くの学校が模索状態にある。オンラインゲーム等への過度な没入、SNSを利用したいじめや誹謗中傷の書き込み、有害サイトへのアクセスなど、学校から配布された端末が不適切に使用されてしまうケースも報告されている。警察庁による「SNSに起因する事犯の被害児童数の推移」をみると、過去5年間継続して増加傾向にあり、特に青少年保護育成条例違反、児童買春、児童ポルノ等の被害の増加は顕著である（警察庁生活安全局少年課、2022）。

こうした状況の中、学校現場で推進されているのが、家庭内でのルール作りである。中高校生を対象とした調査によると、約半数が家庭内でスマホやネットの使用に関して何らかのルールを決めており、その内の実に9割がそのルールを守って使用していた。迷惑メールの受信や有害サイトへの接続を遮断してくれるフィルタリング機能の使用についてルールを決めていたのは約15%であったが、その内の98%が実際に機能を使用しており、非使用群と比べると有害サイトへの誘導被害経験が有意に少なかった。同様に、深夜時間帯の使用制限など、端末を使用する時間帯に関わるルールを決めていたのも約15%であったが、ルール無群に比べてスマホ使用による睡眠不足や起床困難経験が有意に少ないことが示された（金網ら、2022）。これらの結果から家庭内でのルール作りには一定の効果が期待できそうであるが、ルールを

決めるだけでスマホやネットに関わる全ての被害や不適切行為を防止できるわけではない。子ども達自身が主体的に、自律的な端末使用への意識や、オンライン上での適切な行動に向けたモラルを身につけることが不可欠である。

ネット上でのコミュニケーションは、相手の顔が見えず、またお互いの正体も隠すことができるため、時に自制が効きにくく、また時に相手への配慮や思いやりが欠けてしまうことも少なくない。さらに友達申請や相互フォローなどによって同質の価値観をもつ者同士が集いやすく会話が極端化しやすいという特性がある。また公共の場であるという意識を持ちにくい一方で、一度発信された情報は、瞬く間に拡散され、すべてを回収することは不可能とも言われている。自覚なく発した一言や安易に投稿した画像や動画が思いがけないトラブルのきっかけになることも少なくない。こうしたネットの特性を理解した上で、一定の危機意識をもって使用することが不要なトラブルから身を守る第一歩であるが、学校での取組に目を向けると、多くは集団指導によるリスク認知・啓発教育が中心であり、その頻度も年に1～2回と決して多くない。家庭とも連携しながら、子ども達の使用実態に即した、リスク接触時の対応も含めたリスク対処教育の積極的な推進が今後の課題であろう。

【文献】

警察庁生活安全局少年課（2022）令和3年における少年非行、児童虐待及び子供の性被害の状況、警察庁。

金網知征・家島明彦・戸田有一（2022）児童生徒のネット媒介問題への関与実態と学校の予防・対応実態とのマッチングに向けて、日本教育心理学会第64回総会発表論文集。

不登校の児童・生徒へのICT支援

善通寺市教育委員会との共同研究

善通寺市では、不登校の子供たちが自宅や学校以外の施設で授業等を受けられるように、対面とオンラインを組み合わせた「ハイブリッド教育」を実施しようとしています。香川大学教職大学院では、善通寺市教育委員会と「不登校の児童・生徒へのICT支援」について共同研究を行っています。大学の知見と学校現場の知見を融合させることで、学校現場の課題の解決につながるよう貢献して参ります。

大学院説明会および入試日程のご案内

B日程

出願期間：2022年11月4日（金）
～9日（水）
学力試験日：2022年11月26日（土）

C日程

出願期間：2022年12月21日（水）
～2023年1月10日（火）
学力試験日：2023年1月21日（土）

大学院説明会は、教職大学院ホームページ上にて動画等でさせていただきます（右下のQRコードをご利用ください。「2022年度 教職大学院説明会特設web会場へ」から移動ください。）。個別の質問等がございましたら、フォームを用意しておりますのでご連絡ください。入試の詳細につきましては、「学生募集要項」をご確認ください。学務係で配布しております。また、ホームページでもご案内しておりますので、あわせてご覧ください。

